8月27日のウクライナ情報

安斎育郎

●ウクライナ軍、NATO弾でドネツクを攻撃　クラスター爆弾も（2023年8月24日）

ウクライナ軍は 24 日未明～朝、ドネツク人民共和国の中心都市・ドネツク市を攻撃した。人口密集地域で使われたのはNATO（北大西洋条約機構）諸国の規格である155ミリ砲弾で、クラスター爆弾も含まれていた。現地当局が発表した。

ウクライナの戦争犯罪の調査を管轄するドネツク人民共和国の統制調整共同センター（JCCC）によると、ウクライナ軍は24日午前2時20分～午前5時25分の間に少なくとも17発のNATO規格砲弾でドネツクを攻撃した。また、午前 6 時はドネツク市キエフ地区と市郊外のヤスノブロドフカ居住区にNATO規格のクラスター爆弾が使用された。

155 ミリ弾は NATO 諸国が採用している統一規格の口径弾。ウクライナはこれまでに米製「M777」、独製「PzH 2000」、ポーランド製「クラブ（蟹）」、仏製「カエサル」などの各種榴弾砲の供与を受けている。

●BRICS、6カ国の正式加盟で合意　イラン、サウジなど（2023年8月24日）

ロシア、中国、インド、ブラジル、南アフリカでつくる協力枠組み「BRICS」に、アルゼンチン、エジプト、イラン、エチオピア、アラブ首長国連邦、サウジアラビアの 6 カ国が正式加盟することが決まった。南アフリカのヨハネスブルグで 24 日まで開催された BRICS 首脳会議（サミット）で、議長国を務めた同国のシリル・ラマポーザ大統領が明らかにした。

6 カ国の加盟は、サミットの結果として共同宣言に盛り込まれた。ラマポーザ大統領によると、加盟ステータスは2024年1月1日から有効となる。また、今回は拡大の第1段階としており、今後の更なる広がりも示唆した。

このほか、共同宣言では自国通貨での決済や新たな決済手段の必要性などが強調され、各国財務省が検討を進めることで合意した。また、BRICSが紛争の平和的解決に賛成することも加えられた。

会談後の記者会見にオンライン参加したウラジーミル・プーチン大統領の発言は次の通りとなっている。

拡大を含む BRICS の共同宣言に向けた交渉は容易ではなかった
南アフリカ大統領は枠組みの拡大の議論において、外交スキルを発揮した
統一通貨の創設はとても複雑だが、我々はそれに向かって動いている

第 15 回 BRICS 首脳会議は 22～24 日の日程で、南アフリカのヨハネスブルグで開かれた。ロシアからはセルゲイ・ラブロフ外相が代表団を率い、ウラジーミル・プーチン大統領もビデオ会議の形で参加した。

●バイデンはこの紛争を止められない＝トランプ前大統領　ウクライナ、裁判について語る（2023 年 8 月 24 日）

億万長者、前米大統領、次期大統領候補、そして被告人など様々な肩書きを持つドナルド・トランプ氏。24 日にも大統領選介入事件の審理でジョージア州の裁判所に出頭する見込みだ。これに先立ちトランプ氏は 23 日、米名物ジャーナリストのタッカー・カールソン氏のインタビューに答え、自身への疑惑やウクライナ情勢などについて持論を展開した。

インタビューの全編は SNS「X（旧ツイッター）」上でカールソン氏が公開している。

●プーチン大統領 トベリ州墜落機の遺族に哀悼の意（2023 年 8 月 25 日）

8 月 24 日、プーチン大統領は前日夜にトベリ州で起きたプライベートジェット機墜落事故の犠牲者の遺族らに対して、深い哀悼の意を示した。同機には民間軍事会社「ワグネル」代表のエフゲニー・プリゴジン氏も搭乗していたものと見られている。プーチン大統領は事故の入念な捜査を約束した。

「確かにもし、乗っていたとすれば、の話だが、最初に出されたデータでは『ワグネル』社の社員が搭乗していたことになっている。そうであれば私は、これらの人々がウクライナのネオナチ体制に対する闘いという我々共通の仕事において、著しい貢献を成したことを指摘したい。我々はこれを記憶している。わかっており、忘れはしない」プーチン大統領はこう語っている。

プーチン大統領はまた、「ワグネル」創始者のエフゲニー・プリゴジン氏について、以前から知っており、複雑な運命をくぐってきたものの、非常に才能豊かな人間だったと評した。

プーチン大統領は、事件の捜査は余すことなく、最後まで行われると補足している。

●日独の国連安保理常任理事国入りは問題外＝ラブロフ露外相（2023年8月25日）

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は BRICS サミットを総括した記者会見で、ドイツ、日本を国連安全保障理事会の常任理事国に加えることなど問題外と明言した。外相は 2 国の常任理事国入りは意味がないとの見方を示している。

ラブロフ外相は、現在の国連安保理を構成する 3 分の 1 以上がいわゆる「ゴールデン・ミリオネアー」（編集：西側の先進国）であるため、日本、ドイツの常任理事国入りは現在の不公平な状況をさらに深刻化させることになると指摘している。

ラブロフ外相はさらに次のように指摘している。

「ドイツも日本も安全保障理事会の討議に目新しいことは一切運んでこないだろう。なぜなら彼らは大人しくワシントンの言いなりになっているからだ。他の西側諸国もほぼこれと同じである」

ラブロフ外相は、今回初めて BRICS の文書において、常任理事国をも含め、あらゆるカテゴリーにおいて発展途上国による代表メンバーの拡大を通じて国連安保理改革を行うことへの支持が表された点に注意を喚起した。

6 月、米ワシントンポスト紙はバイデン米大統領が自国のリンダ・トマス＝グリーンフィールド国連大使に対し、国連安保理改革問題を討議するよう指示したと報じていた。同紙によれば、ホワイトハウスをはじめとする諸機関内ではさらに 6 カ国の常任理事国入りを望んでいる。ただし、6 か国の具体的国名は現段階では明らかにされていない。米国はこれまでドイツ、日本、インドの常任理事国入りへの申請を支持する意向を示している。

●「日本の政策は米国や NATO と変わらない」＝ラブロフ露外相、国連総会で演説（2022 年 9 月 25 日）

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は24日、米ニューヨークで開かれている国連総会で演説した。演説でラブロフ外相は日本の話題にも触れ、「日本の政策は米国や北大西洋条約機構（NATO）のそれと少しも違いがない」と述べた。

演説でラブロフ外相は、日本が 2023 年から 2 年間、国連安保理の理事国を務めることに関連し、次のように述べている。

「現在、安全保障理事会の 15 カ国のうち、6 カ国は西側グループを代表している。それが来年には 7 カ国になる。日本が現れるからだ。日本の政策は米国や NATO のそれと少しも違いがない」

また、国連改革については「ロシアは国連安保理の拡大に賛成する。アフリカやアジア、ラテンアメリカの諸国やインド、ブラジルなどは常任理事国となり得るだろう」と述べた。一方で、常任理事国入りを目指す日本やドイツなどを念頭に、ロシアや中国に敵対的な西側諸国を新たに安保理に加えるのは「もはや単に滑稽だ」と断じた。

また、ラブロフ外相は新たな世界秩序について次のように述べている。

「今日、未来の世界秩序の問題について解決策を得ようとしている。このことはどんな先入観を持った観察者にとっても明白なことだ。問題はその秩序が虚名の高い『ルール』に従って生きるよう他者に強要する 1 つの覇権によるものなのか。それとも民主的で公正な世界、つまり恐喝や威嚇、ネオナチズムがない世界なのかということだ」

ラブロフ外相はこのように指摘し、米国一強の世界秩序に異を唱えた。さらに、「ロシアは断固として後者を選んだ。我々は同盟国やパートナー、同じ考えを持った者たちとともに、その世界秩序を具現化するよう求める」と続けた。

そのほか、演説でラブロフ外相は次のように述べた

西側諸国は誠実な対話と妥協の模索ではなく、乱暴な挑発や偽装を行っている

特殊軍事作戦実施の決定は西側諸国の合意形成能力の欠如によってもたらされた

分別のないワシントン（米国）やブリュッセル（欧州連合）はロシアに経済戦争を仕掛け危機的状況を深めている

ワシントンは全地球を自らの庭にしようとしている。

●国連は妥協を模索する組織、自分の願いを叶える場ではない＝露外務省（2022 年 9 月 23 日）

国連は西側の願いを叶えるための金魚（ロシア民話で金魚は願い事を叶える生き物として知られている：スプートニク通信）ではなく、 妥協を模索するための組織であり、安全保障理事会の改革は西側の利益を優先して行うべきではない。ロシア外務省のマリア・ザハロワ報道官が表明した。

ザハロワ報道官は国営放送「ロシア 1」の番組で、国連安保理の改革を要求する西側の主張に反発した。その中で次のように発言した。

「国連は正気ではない人たちの気まぐれを叶えるための金魚ではない、自らの病的な願いを叶えるために使用してはいけない。国連は合意の組織であり、国際法に則ったルールを考案する組織であり、妥協を模索し、世界の崩壊とカオスを許さないために対話をする場である」

報道官は安保理の改革について、西側の指導者たちの利益のために行うべきではないとした。

「仮にドイツが国連安保理常任理事国入りを要求するのであれば、これはどうなるのか。独立していない国、米国のサテライト国がまた増えるだけでないか。あそこには米軍基地がある。一方、その他の大陸、アフリカ、アジアは全くもって代表されていない」

先にマダガスカル外務省はスプートニク通信の取材に応じた中で、アフリカの関与を強化する形での国連安保理改革を主張した。

●ショルツ首相がドイツの安保理常任理事国入りを主張、加盟国に支持呼びかけ（2022 年 9 月 21 日）

ドイツは国連安全保障理事会の常任理事国になる用意がある。ドイツのオラフ・ショルツ首相が国連総会の一般討論演説で表明し、ドイツの常任理事国入りに向けた支援を要請した。

ショルツ首相は一般討論演説で次のように呼びかけた。

「ドイツは長年にわたって国連安保理の改革とその拡大を主張してきた。何よりもまず、グローバルサウス（南半球の発展途上国：スプートニク通信注）の国々をもっと多く加えることを呼びかけている。ドイツは常任理事国としてより多くの責任を負う用意があり、その手始めとして 2027 年から 28 年にかけて非常任理事国となる。私は我が国の候補を支援するよう呼びかける。我が国は国連憲章を遵守し、協力を表明し、その活動に参加している」

●「ドルのエポックの終焉」 元仏軍諜報員がウクライナ紛争の真の原因をズバリ（2023 年 8 月 23 日）

BRICS サミットは「ドルのエポック」を終焉に近づけた。元仏軍諜報員のピエール・プラス大尉はこうした見解をスプートニクからの取材に語った。プラス氏は、これこそ米国にとっては、自国の影響力を失う「超えてはならない一線」であり、ウクライナ紛争の正真正銘の原因だとする見方を表している。

「この紛争では我々は兵器の供給がテーマになると、常になんらかの越えてはならない一線の話を耳にしている。現段階で我々はデッドラインに到達してしまった。BRICS サミットがそれだ。これはドルのエポックの終焉と脱ドル化を記念するものとなるだろう。なぜなら本当の闘いはそこで起きているからだ。これは経済の闘争だ」

プラス氏は BRICS サミットで新しい取引通貨の創設が話し合われる点に注意を喚起した。

「新通貨は金本位制になる。債務者は自分の債権者を殺そうとしているわけだ。私が思うに、これこそまさしく超えてはならない一線で、この戦争の本当の原因だ」プラス氏は確信をもってこう語った。

プラス氏は、BRICS 諸国には国際銀行間システムの SWIFT を「使わずに済ませることのできる全てがある」と指摘している。

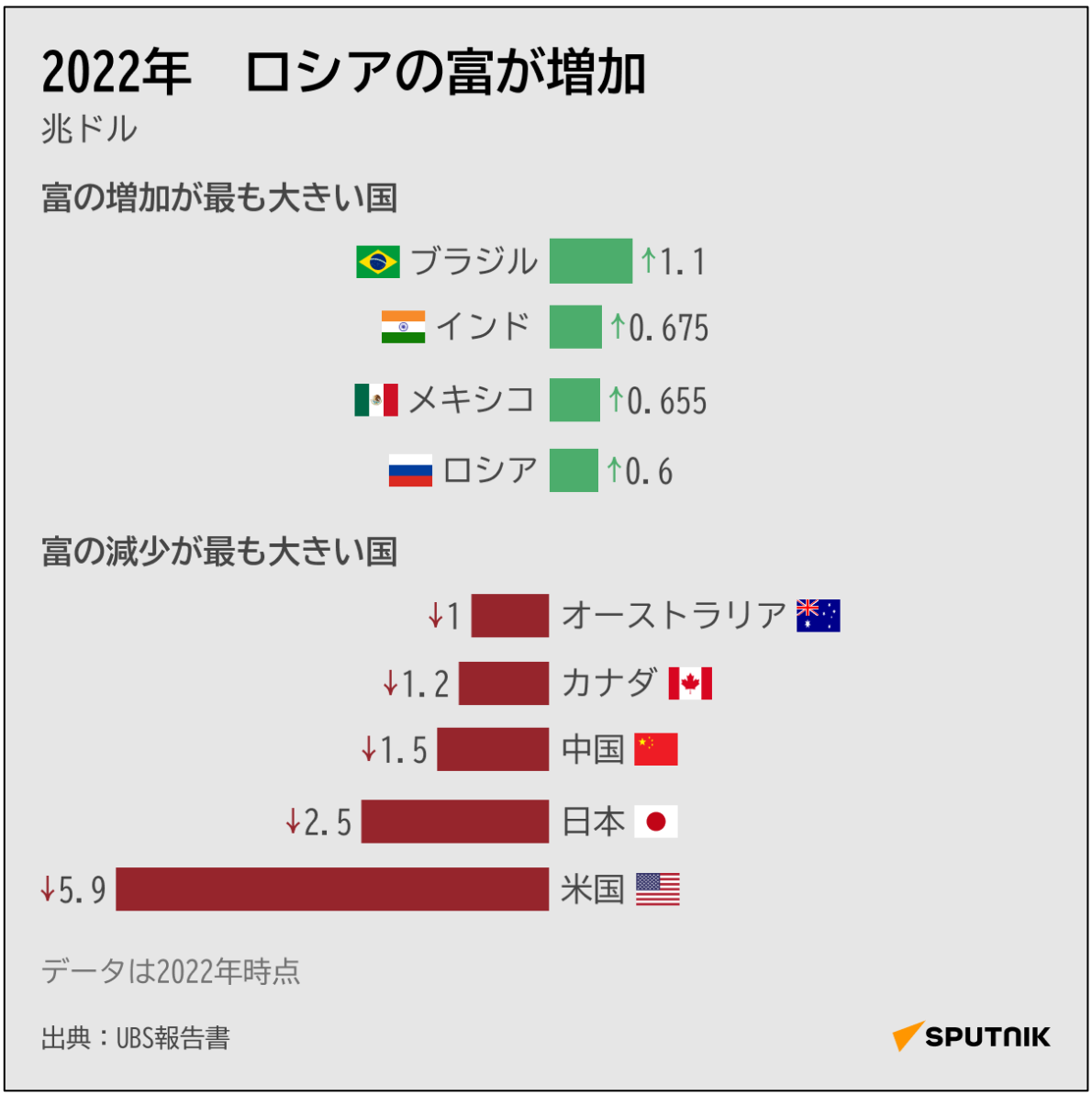
●【図説】ロシア　2022年に富が増加　西側諸国は大きく減少（2023年8月22日）

スイスの金融最大手UBSはこのほど、世界の家計の富に関する年次報告書「グローバル・ウェルス・レポート」を発表した。報告書によると、2022年は、世界の富が2008年の金融危機以来14年ぶりに減少。西側諸国が数兆ドル規模で富を損失した一方、ロシアは富の増加を記録した。

世界の富の損失額は合計で10兆9000億ドルに達し、北米や欧州に大きく集中した。国別の損失額のトップは米国で、日本、中国、カナダ、オーストラリアが続いた。

一方で、ブラジル、インド、メキシコ、ロシアは富を増加させた。

報告書によると2022年、ロシアの富は6000億ドル増加。また、成人一人当たりの富の中央値も前年の6897ドルから7555ドルに上昇した。米「Business Insider」は富の増加の要因の一つとして、ロシア経済の主要な原動力の一つである原油の価格上昇が考えられると指摘している。



●ロシアがオペレーターのほぼ不要なドローンを開発（2023年8月23日）

ロシア人エンジニアが最大限、自動制御で動作する電気無人機を開発した。開発した学研製造企業「レーダーmms」のイヴァン・アンツェフ常務理事はスプートニクからの取材に、この新型無人機の動作

にはオペレーターは不要なことを明らかにした。

アンツェフ氏の話では、電気無人機は重量 30 キロ、最高速度は時速 90 キロ、航続時間は気象条件によって変わるが 1 時間半から 2 時間。例えば冬場は消費電力のうちわずかな量がサーモスタビライザにいく可能性がある。アンツェフ氏は、新型電気無人機をベースに、オペレーターを一切排除した多機能運輸システムの構築が可能で、実現すればかなりのコスト削減が図れると語っている。無人機は人工知能（AI）によって自分の状態の自律制御が可能だ。例えば、不測の事態には AI は元の基地に戻るか、不時着をするかの緊急の判断を行う。

「レーダーmms」のエンジニアらが次世代の自律型電気交通手段を開発する際にドローンという形態を選んだのは、操作がはるかに簡単で、自動充電が可能という理由からだ。アンツェフ氏はさらに、ドローンには地上車両よりも可動パーツや摩耗しやすい部品がはるかに少ないため、耐用年数が大幅に長い点を指摘している。また、ドローンの充電は任務を終えたドローンが戻ってくるドローンポートで行われる。ドローンは 24 時間稼働するため、1 台が充電のためにドローンポートに到着すると、充電を終えたばかりのドローンがタスクのためにポートから出ていくとふうにローテーションが組める。

スプートニクは、ロシアが今後数年の間に、農業、建設の監視、到達が困難な場所への貨物の配達といった分野で民生用ドローンの広範な使用を計画中だと報じている。

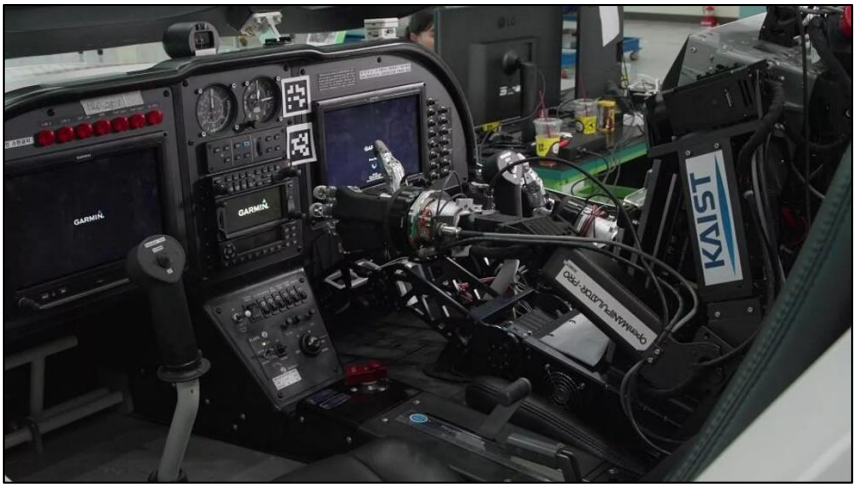
●世界初、ヒューマノイドのパイロットが開発（2023 年 8 月 22 日）

韓国科学技術院（KAIST）は世界初のヒューマノイドのパイロット「PIBOT」の開発に成功した。KAIST が公表した。

PIBOT は人工知能（AI）で制御。航空図や不測の事態にとるべき行動プロトコルを記憶することができる。

KAIST は、PIBOT はミスを犯さずに飛行し、非常時には人間のパイロットより迅速に判断、行動ができると太鼓判を押している。また強いジェット気流においてさえ、スイッチの操作、内蔵のカメラで外界の状態の分析ができる。PIBOT はすでにハンドル操作、離陸、航続飛行、着陸を習得した。

現段階で PIBOT が通過したテストはすべてフライトシュミレーターのみだが、開発者らは実際に航空機に乗せてテスト飛行を行おうとしている。プロジェクトの終了は 2026 年に予定されている。開発者の話では PIBOT は航空機の操縦だけでなく、地上の交通機関の運転もできるようになる。



●【人物】「私はロシアを友達のように感じています」露日の文化交流活動を行っている古池麻衣子氏にインタビュー（2023 年 8 月 24 日）

露日の文化交流活動を行っている古池麻衣子さんがロシアを訪れた。古池さんがロシアを訪問するのは今回で 2 回目。初の訪露は 2014 年だった。スプートニクは、モスクワにある全ロシア博覧センター（VDNKh）で古池さんにお話を伺った。

古池麻衣子氏：神戸からモスクワに旅行に来ました。古池麻衣子です。私はロシアの料理や音楽などに興味を持っていて、今のロシアを見たくて今回旅行に行きました。

スプートニク：ロシアに来る前に不安はありましたか？

古池麻衣子氏：不安はありました。まずはクレジットカードが使えないことです。お金の支払いをどうしたらいいかというのが一番の問題でした。あとはロシアはきっと大丈夫だと思っていたし、周りの友達もみんな大丈夫だと言っていたので、来ること自体に不安はありませんでしたが、実際どうやって旅行したらいいかがすごく不安でした。直行便がないのは構いません。着けば大丈夫なので。ただロシアに来てから本当に旅行がうまくできるのかが不安でした。

スプートニク：モスクワとサンクトペテルブルクで特に行きたい場所はありますか？

古池麻衣子氏：私はヴィクトル・ツォイに興味があるので、ヴィクトル・ツォイに関係する場所に行きたいです。モスクワだったら「ツォイの壁」。昨日見てきました。サンクト・ペテルブルグは、彼の働いたボイラー室が今ミュージアムになっているので、そこに行ってみたいと思っています。

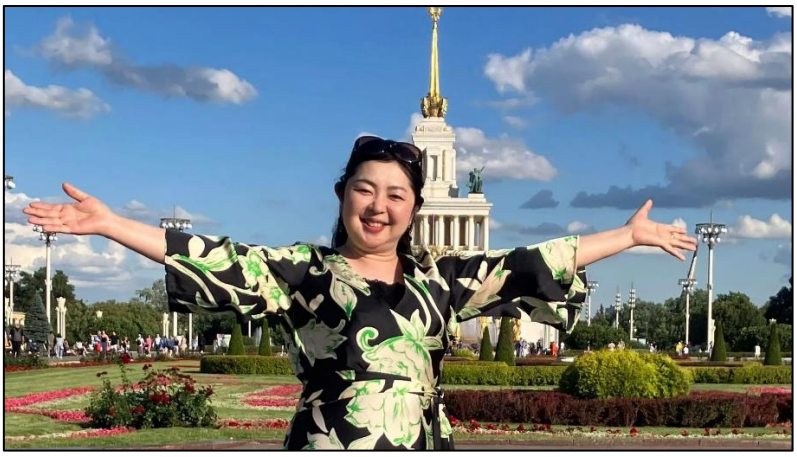
スプートニク：おそらくヴィクトル・ツォイは日本ではあまり知られていませんよね？

古池麻衣子氏：はい。私だけではないと思うんですけども、私は何年も前からロシアのサイトでヴィクトル・ツォイを見て、このアジア人はどういう人なのかなということにまず興味を持ちました。調べてみるとロシアの伝説的なロックスターということがわかり、ソビエト時代にそんな人がいたということに驚いて、すごく興味を持って調べ始めました。

スプートニク：古池さんは日本でロシア文化に関係するイベントに何度か参加されています。それについて教えてください。

古池麻衣子氏：はい、あります。そのうちの 1 つは自分で企画しました。ソビエトの興味深い文化を一般の日本人に知ってもらう「クラブ・ソビエト」というイベントです。ヴィクトル・ツォイもソビエトの音楽文化の代表的な人なので、いつかそれを日本の人に知ってもらうようなイベントをしたいなと考え

て、今回はツォイのモニュメントを見に来ました。
　スプートニク：ロシア料理にも関心をお持ちとのことですが、これは個人的な趣味ですか、それとも何かの企画と関係していますか？
　古池麻衣子氏：そうですね、これからロシアの食文化とかお茶とかお菓子とかを実際に体験してもらえるようなカフェの開設をしたいと考えていて、今回、実際にロシアのカフェがどういうものかを見るためにも来ました。音楽のイベントもしたいですけど食べること、食べて美味しいなと思ってもらうことも目標にして考えています。
　スプートニク：前回 2020 年にモスクワを訪れてから 3 年が経過しましたが、モスクワの様子や雰囲気は変わりましたか？
　古池麻衣子氏：日本の報道を見てると、一体モスクワはどうなってるのかなって不安だったんですけど、あまりにも普通というか平和で、それにびっくりしましたし、正直、今の日本より豊かで余裕があるように感じました。
　スプートニク：日本では現在、ロシア文化があまり歓迎されていないと聞いていますが、ラフマニノフ生誕 150 年を記念したコンサートのチラシなどを見たことがあります。現状はどうですか？
　古池麻衣子氏：そうですね。今年はそういう記念の年なのでコンサートをやっていますが、去年ぐらいは音楽家の友達から、やっぱりロシアの曲は演奏しないでほしいと言われてるということを聞いていました。最初はやっぱり否定されていたのは事実だと思いますが、ラフマニノフなどのアニバーサリーがあってよかったのかなと思います。ただクラシックはコンサートがあるんですけど、それ以外はあまりもともとそのイベントも少なかったので影響があるかどうかはまだちょっと分からないですね。でもロシアの情報は本当に少ないです。わたしは何回か場所を借りてロシアカフェを開き、ロシア料理を出しました。その時に今のロシアの音楽、ネットで調べた音楽の動画を流したらすごく興味を持つ人がやっぱりいて、面白い、こういうのが知りたかったという人はいました。だからちゃんと何か伝えようとしたら受け止めてくれる人がいるのかなとは思っています。少ないかもしれないですけどね。
　スプートニク：最近、日本を訪れるロシア人観光客が非常に増えました。これについてどのように思われますか？
　古池麻衣子氏：私が周りの人に「ロシアからはけっこう観光客が今も来てるよ」っていう話をしたら、みんなから「知らなかった」と言われます。（ロシア人は）国から出ない、日本にも入れないと思っていたと。結局、ロシアと日本との国に関わりが今も続いているということですね。日本人はロシアにはあまり行ってはいけないことになってますけど、でもロシアからは来ているという事実はみんなに知ってもらった方がいいんじゃないかなと思います。（ロシアには）日本が好きな人が多いですものね。それは嬉しいです。今は難しいかもしれないけど、日本でもロシアのいい面を知って貰えると嬉しいなと思っています。
　よく質問されます。
　「この時期に、あえてなぜロシアと関わろうとするのか」
　私はロシアを友達のように感じています。どんな時でも大好きな友達のために何か行動したいと思うのは、人として当然のことではないでしょうか。それが私の行動の理由です。イメージが悪くなった友達を助けたいという気持ちから、ロシアカフェを始めたんです。時期が悪いとか、ウクライナカフェにした方がいいとか、いろいろ言われましたが、私がロシアが好きなので、後悔はしていません。
　1 日も早く平和な時が来るのを願いながら、これからも文化交流活動を続けます。



●ペルーの麻薬対策警察は、ナチスの旗が描かれたパッケージに入った 58 キロのコカインを押収（2023年5月37日）

ペルーの麻薬対策警察は、ナチスの旗が描かれたパッケージに入った 58 キロのコカインを押収し、ベルギー行きであったと発表しました。

この荷物はアスパラガスを積んだ貨物コンテナの中に隠されているのが発見されました（RT）

https://twitter.com/i/status/1662137655990308866

●ロシアのアメリカ大使館前（2023年8月24日）

ウクライナ軍がドネツクでばら撒いてる爆弾の絵貼ってその周りで寝転がり危険アピール
ロシア人もこんな抗議しかた覚えちゃったの😳😳
https://twitter.com/i/status/1562400676306894849